

第3回「民族共生の象徴となる空間」における民族共生公園（仮称）基本計画検討会  
議事概要

■日時：平成28年3月18日（水）14：00～16：00

■場所：札幌市立大学サテライトキャンパス

■出席委員（五十音順、敬称略）

愛甲哲也、浅川昭一郎、内田祐一、加藤忠、坂井文、佐々木利和、  
戸田安彦（代理：遠藤アイヌ施策推進室長）、野本正博、吉田恵介

■議事要旨

【空間構成計画について】

- 伝統的コタンは、チセやブ（倉庫）等の配置に留意した構成が必要とされる。
- 民族共生公園に隣接する自然休養林やポントとの繋がりにおいて、体験交流プログラムとの具体的な連携の仕方が課題となる。
- 自然休養林とともにサケの放流やヨコスト湿原は、アイヌ文化の復活や再現するための重要な事項が含まれているので、有効活用への取り組みが求められる。
- 象徴空間と仙台藩陣屋跡の連携については、白老町で議論を行っている。
- 自然休養林を通して湖畔を一周するとすばらしいものが見え、小さな川には鮭が遡上する。湖畔の活用が望まれる。
- アイヌにおける世界観という言葉はいろいろな使われ方が考えられるため、理解が難しい概念として捉えられる。

【施設配置計画について】

- 体験交流施設となる体験交流ホールは、座席が500名程度、立席で100名程度の規模が望まれる。
- 体験交流施設となる体験学習館と工房のイメージの違いを分かりやすく表現する必要がある。
- 自然と触れ合うフィールドミュージアムとして、河畔や湖畔、森の中などを歩きながら学び楽しむことができる園路が重要な要素になる。
- 民族共生公園とともに周辺の素晴らしい自然を含め管理運営に際しては、来園者が様々な体験を行える体験交流活動プログラムの構築が期待される。
- 体験交流プログラムは屋内だけでなく、森や湖の自然を活かした活動内容の検討も必要とされる。

【動線計画について】

- エントランスや駐車場の車両動線処理において、大型バスや乗用車、自転車等によるスムーズな動線計画が必要とされる。
- 博物館前のエントランスに大型バスが停まると景観的な阻害要因となりうる。
- 

【植栽計画について】

- 植栽計画においては、できるだけ外来種は排除し、在来種を中心とした植栽を基本とする。

以 上